

平成25年度 第2回福島県スポーツ指導者研修会 全県研修会

『「草の根」から「ナショナル」それぞれの指導者

～僕たちはジュニア時代の彼らに何を伝えておくべきか～』

講師 島根県グリーンテニススクール・カシワイテニスサービス代表 柏井正樹 先生

『スポーツ指導の勤どころ その技と心～体罰の根絶をめざして～』

講師 福島大学スポーツユニオン（人間発達文化学類教授） 白石 豊 先生

於いて：11月24日（日）郡山市 ユラックス熱海



会長あいさつ

今年度2回目の研修会、あいさつを述べる越尾咲男会長。

ジュニアの発掘と体罰の根絶をめざしたスポーツ指導について、1日研修有意義なものにしてください。

開講式

開会のことばを述べる、渡辺征子県中地区副会長



来賓あいさつ

来賓としてお越しいただいた、郡山市体育協会会長坂本 守 様

講義1：柏井正樹先生

最近めきめきと頭角を現し、ATP世界ランキングトップ10入をめざす錦織 圭選手 のジュニア時代に、その才能を見いだし育成して、世界に送り出したコーチの指導哲学を学ぶ。

ジュニアの時の圭選手の特徴は、①ボールセンスとゲームセンスを併せ持つ ②俯瞰の能力に優れ ③負けず嫌いで、勝負へのこだわりが強い、**テニスの大好きな少年**だったそうです。

指導者の役割は、プレーヤーズファーストに徹し、目標の共有、練習環境の整備、より高いレベルへの橋渡しといったことが大切で、才能のある選手を発掘したら、コーチ一人で抱え込まず、組織を挙げて育成をしていく体制が必要であるとの内容でした。



講義2：白石 豊先生

本日の特別講演、日本でのメンタルトレーニングの草分けであり、第一人者として大活躍の地元の福島大学教授 白石 豊先生の講演でした。

昨今、「体罰」の問題が大きく取り上げられ、先生自身もこの問題で全国に出かけ「スポーツ指導の勘どころ」の演題で講演を行っています。



1 違いを生み出す違いを見抜く

1964年東京オリンピック、世界選手権10連覇の日本男子体操を例に、指導者として大切な資質は「本質を見る目」が大切なこと。その上で選手の自己観察能力を育て、対話を大切にして指導にあたるのが肝要とのお話でした。

2 指導者としての8つのメンタルスキル

- ① 意欲 ② 自信 ③ 感情コントロール能力
- ④ イメージ想起能力 ⑤ 集中力 ⑥ リラックス
- ⑦ コミュニケーションスキル
- ⑧ セルフコミュニケーションスキルを磨いていくことが大切であり、それらを指導者が身につけていくことにより、体罰を用いない指導が可能になるとの内容でした。

